

肺炎患者における FilmArray[®]Biofire 肺炎パネルの有用性についての検討

◎鈴木 貴弘¹⁾、西村 美里¹⁾、指田 聡美¹⁾、加藤 愛美¹⁾、柳田 篤¹⁾
株式会社 日立製作所日立総合病院¹⁾

【目的】FilmArray[®]Biofire 肺炎パネル（バイオメリュー・ジャパン）は喀痰や気管支肺胞洗浄液に含まれる病原微生物 26 種と薬剤耐性遺伝子 7 項目の核酸を同時に短時間で検出できる検査であり、肺炎の起病因菌同定や的確な抗菌薬選択を可能にすることができるが、臨床における有用性について十分検討されていないのが現状である。今回、肺炎患者における肺炎パネルの有用性について検討した。【方法】2023 年 1 月から 11 月までに当院に入院し、肺炎を疑い肺炎パネルを実施した 50 例（喀痰 39 例、気管支肺胞洗浄液 11 例）を対象とした。調査項目として、肺炎パネルと培養検査結果の比較、ウイルス・非定型肺炎病原体の検出率、抗菌薬選択について後方視的調査を行った。【結果】肺炎パネルの結果と細菌培養検査で少なくとも一つ以上の細菌が検出され一致した症例は 23 例（46.0%）であった。検出された細菌の中で割合が高い菌種は *Staphylococcus aureus* 17 例（34.0%）、*Haemophilus influenzae* 15 例（30.0%）であった。肺炎パネルで検出されず、培養検査で陰性または常在菌のみしか検出されなかった症例は 14 例（28.0%）であっ

た。肺炎パネルと培養結果が一致しなかった症例は 10 例（20.0%）であった。肺炎パネルの性能評価では全体一致率 78.7%、陽性一致率は 100%、陰性一致率は 58.3%であった。薬剤耐性遺伝子（*mecA/C*）は 4 例（8.0%）検出されたが、培養検査では 1 例（2.0%）のみであった。非定型肺炎病原体・ウイルスの検出は *Legionella pneumophila* 2 例（4.0%）、Human Rhinovirus/Enterovirus などの呼吸器ウイルスが 16 例（32.0%）であった。抗菌薬の選択は、すでに抗菌薬が経験的に投与されている症例のうち肺炎パネル実施後、当日中に抗菌薬を変更し de-escalation された症例は 10 例（20.0%）であった。抗菌薬を変更せずに継続された症例は 16 例（32.0%）であった。【考察】肺炎パネルの使用により迅速に肺炎の病原体検出が可能となった。薬剤耐性遺伝子の検出については、必ずしも培養結果と一致しない症例が認められ注意が必要である。しかし、一部の症例では肺炎パネルにより、迅速に抗菌薬を変更できていた。今後、結果の解釈について臨床医との連携が重要である。

連絡先 0294-23-1111（内線 2841）